

日韓児童



ネットで応援



韓国語で韓国チームを応援する道明寺南小の児童たち

テレビやチャット交流

藤井寺・道明寺南小学校

サッカーワールドカップ(W杯)で、共同開催の韓国がアメリカと引き分ける激戦を演じた十日、韓国の子供たちと交流している藤井寺市の小学校では、児童たちが最新の通信技術を使って、韓国の児童たちと一緒に声援を送った。一方、大阪市役所前では、「中之島サッカーフェスティバル」が開かれ、参加国の自慢のダンスが披露されるなど、この日もサッカー熱は高まるばかりだった。

藤井寺市立道明寺南小とメッセージを送ってくる(森口弘二校長)では、昨年度から、韓国・金海市の翰林初等学校と電子メールなどで交流を深めてきた。今年はテレビ会議システムを導入。大型スクリーンでお互いの教室を映し出すことが可能になり、共同応援を計画した。

道明寺南小では六年生、約八十人が教室に集まり、韓国語で「イギョラ、ハング(がんばれ、韓国)」などと声援を送った。

インターネットの「チャット」を使い、韓国の児童が同点劇に「私たちは興奮を鎮めることができない」

とメッセージを送ってくる。道明寺南小の児童も「このまま逆転だ」とキーボードをたたいて応援。馬場美沙さん(11)は「意気投合して応援できて楽しかった。次は日本戦と一緒に応援したい」と話していた。